



日高ロータリークラブ WEEKLY

2024-2025 R. I テーマ
ロータリーのマジック

THE ROTARY CLUB OF HIDAKA

例会日	毎週火曜日	時間	第1・3週 18:00~19:00	第2・4週 12:30~13:30
例会場	日高市商工会	住所	〒350-1206 日高市南平沢1083 日高市商工会館内	
事務所	同上	TEL. FAX	042 (985) 3355	
会長	古本良子	幹事	谷野秀之	会報委員長 上野宗久

第1921回例会 2025年4月8日(火)

2025年4月22日発行 第1712号

会長の時間 古本良子会長

本日は、4月のロータリー月間テーマである『母子の健康』のお話をさせていただきます。※2022年RI理事会(2022年10月)で4月から7月へ移動を決定された。

月間の趣旨は、5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減、妊婦の死亡率と罹患率の削減、より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、保健従事者を対象とした研修、保健ケアの提供、母子の健康に関連した仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金の支援を強調するという事です。現在、毎年5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定590万人といわれています。その原因は、栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものばかりです。『予防可能』な原因で母と子どもが命を落とすことなどあってはならないと、世界中のロータリアンは考えます。すべての母子が質の高い医療を受けられるよう、そして、出産で命を落とす母親がいなくなり、子どもがすくすくと成長できるように、陰ながらではありますが支援活動を行っております。具体的な活動としては、教育、予防接種、出産キット、移動クリニックなど、ありとあらゆる方法で母子の健康を推進しています。また、女性を対象に、HIV母子感染の予防、母乳による授乳、病気の予防に関する教育も行っています。将来を見据え、地域社会が自力で母子の健康を守っていけるよう研修と支援を行うことによって、持続可能なかたちで母子の健康を守るために活動しております。

～母子の健康における成果(ロータリーによる活動の例)～

☆出産前ケアの移動クリニック

ハイチは、西半球で母子の死亡率が最も高い国です。この国で、医療ボランティアと助産師が僻地に住む母と子どもに医療ケアを提供できるよう、医療機器を搭載したジープを寄贈。

☆可動式がん検診支援

インドにおける、可動式の癌検診機器一式の提供と、認識向上を目的とした研修の実施。

☆産科ろう孔の治療

自宅出産を安全に行うため、ロータリー会員が300万ドルを投入して5年間の試験的プロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、2005年以来、産科ろう孔で苦しむ女性たちの尊厳と希望を取り戻すために、当初の目標を500人上回る1500人の治療を行ってきました。



幹事報告 谷野秀之幹事

地区事務所より

・4月のRIレートのお知らせ \$1 = ¥150

結婚誕生祝 上野宗久親睦委員



[誕生日] 4月

谷野秀之さん 大河原 実さん
古本良子さん 和田貴弘さん
犬竹一浩さん 清水義峰さん
武藤和雄夫人 米子様

[結婚記念日]

大河原 実さん 長谷川 悟さん
鬼澤孝広さん 和田貴弘さん



卓話 イニシェーションスピーチ 清水貴博 会員



私が代表取締役を務めております、(株)清水精機の会社紹介(事業内容等)をさせていただきます。工場所在地は日高市高富にございます。以前は新座市に工場を構えておりました。日高市へは、2023年4月に新工場が完成し、5月より正式に移転して参りました。事業内容ですが、医療機器、光学・測定機器、食品機械用等の精密板金加工から溶接まで一貫生産しております。明確な品質方針と環境方針(基本理念、行動方針)の基、お客様の商品価値を高めることが、私たちの役目だと思っております。当社では『QCD+C』を掲げており、『+C』はコミュニケーションの『C』で、お客様とのコミュニケーションを大切にして、お客様の求めているニーズを細かく確認させていただきます。そして技術力と加工ノウハウによる提案力、高効率な設備を活用したコストダウンを実施。デザインの複雑で他社では困難な加工でも対応可能ですので、こうした強みを生かし、開発段階からお客様と一緒に取り組むことに力を注いでおります。またSDGsの17のゴールに貢献するため、太陽光パネルを屋根に設置、埼玉版SDGsの推進(コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)と共にワンチームで推進。当社自動販売機の売上の一部は、県の関連基金に寄付)等々、積極的に取り組んでいます。

～第2回 埼玉 DX 大賞 奨励賞を受賞(DVD鑑賞)

組織作りとDX化への取り組み モノと情報の見える化を革新のエンジンへ～

本年、『第2回 埼玉 DX 大賞奨励賞』を受賞させていただきました。受賞の際は皆様に温かいお声掛けを頂き、改めて感謝申し上げます。

※DX(デジタルトランスフォーメーション)

デジタルテクノロジーを使用して、ビジネスプロセス・文化・顧客体験を新たに創造(あるいは既存のそれを改良)して、変わり続けるビジネスや市場の要求を満たすプロセスのこと。

☆新工場の建設、新たな組織作りとDX化へ

新座工場で30年間事業を続けてきましたが、お客様の幅も広がり、求められることも多様化してきましたので、生産能力の限界を感じていました。また、溶接工程が2階にあったり、検査室が狭かったり、出荷場所に屋根がないので雨対策が必要だったり、何かと不便で手狭でした。新座工場で困っていた課題等を解決し、理想の工場を目指して新工場の建設を決断しました。同時に工場建設のノウハウを持つ人材を探していたところ、大手企業で工場長の経験者を生産企画・事業推進本部長として採用することができ、新工場建設の中心的な役割を担ってもらいました。他の経営幹部にも意見やアイデアを聞くなどして、一緒になって材料投入から前加工、曲げ加工、溶接、検査、出荷までの最適な作業動線、設備レイアウトなど決めました。その甲斐あって、現在何のストレスも感じることなく作業を行うことができます。今思えば、当時は社長としての決断・確認、関係機関との折衝・申請、プロジェクトチームのアクセルを踏んだりブレーキをかけたりと大変でした。この新工場建設をチャンスとし、市場ニーズに迅速に対応できる生産プロセスの柔軟性や最適化を、積極的にアピールして営業展開したことで、新規のお客様からの案件増にもつながりました。新座工場では仕掛品がたくさんありましたが、新しく生産管理システムを導入したことで、工程の『見える化』が進みました。全従業員がiPadを持ち、工程ごとに「着手」と「完了」をバーコードで入力していますので、タイムリーに事務所にあるモニターで、製品がどの工程にあるのかを確認することができます。リピート品であれば、これまでの作業実績データとの比較で進捗度合いを確認することもできます。また、iPadで図面を見ることもできますので、ペーパーレスだけでなく画面を拡大すれば細かい数字も見やすくなりますし、使用治具、加工ポイントの確認・保存もできます。『やるべき仕事を、やるべき時間に、やるべき工程が仕事をこなす』というあるべき姿が見えるようになってきました。従業員と同じベクトルに向かって仕事ができるということは、幸せなことだと思います。工程間の移動の無駄をなくす自動搬送システムの導入や、新たな設備投資用のスペースも確保していますので、これからはさらなる自動化、省人化のためのスマートデジタル工場を構築していきたいです。同時に人材育成にも力を入れています。工場板金技能検定をはじめ、溶接技能者、品質管理検定などの取得も推進していますので、引き続き継続していきたいです。そして、長い目で見て技能伝承も社内で進めていきたいです。今使用しているiPadを利用して、ベテラン社員と若手社員の作業動画を撮影しながら、何が違うのかを比較してみる。生徒も先生も社員であり、即戦力の人材育成に取り組む場として、展開できればと思っています。人材育成を通じて埼玉の雇用を守り、埼玉から世界に発信できる会社を目指していきたいと考えております。

出席報告	4月8日	会員数	出席数	出席免除	欠席数	出席率	3/26率
	昼間	21	13	2	8	63.2%	73.7%

ニコニコボックス報告 会員 13 名 金額 21,000 円 累計金額 295,000 円